



発行所 福井県大野郡 和泉村公民館 印刷所 松浦印刷所

Table with population statistics for 1964: 住民登録人口 5,701 (Male 2,854, Female 2,849), 世帯数 1,314, 面積 932.26平方キロ

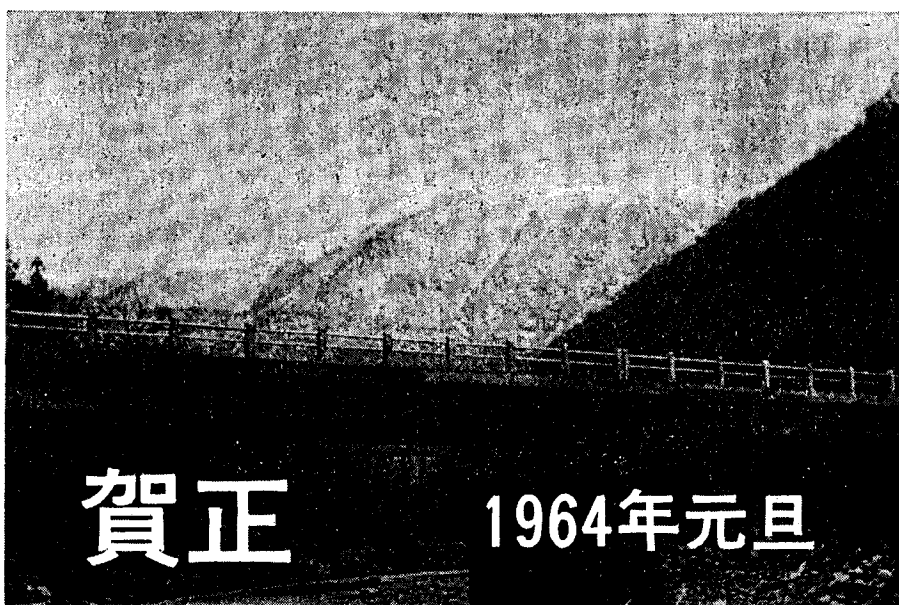
公民館強調目標
一、一家円らんで楽しい健全なお正月を過ごしましょう。
一、一年の計は元旦にあり、お正月は一家揃って一年の計画を立てましょう。
一、お正月に甘んじて、度を越さぬ様にしましょう。

新年を迎えて

村議会議長 山本清孝



謹しん なざわめきの中で、しかもあつと云う間に過ぎ去つた感が致します。御祝詞を申し上げ、村政が執行されて伊勢湾台風以来、度重なる災害も殆んどその影をよめぬいまでになりましたが、地域により又部落にまたがれ、不都合な行き届かない部分があるかと存せられます。新年度は特に災害復旧について



1964年元旦 賀正

「静」 谷戸口附近より和泉村の屋根、荒島岳を望む。

年頭の御挨拶

村長 杉本又助



村民の誠感慨無量なものが、皆さう御座います。昭和三十五年の大災害が打ち続くと、私が村民各位の御支援によりまして再度、村長の職に就任致しまして、今年も任期仕上げの年となりまして、過去七七年(上穴馬村長を通過致しますと八年八ヵ月)の間、大きく動揺した村政を御預りして、何一つ御満足頂ける様な活動も出来ませんでした。電源開発、災害復旧、鉄道促進は私の村長使命の三本の柱であつて、過去を振り返つて見ますとき

賀正 石神慶之助

賀正 石神慶之助

出ないのではありません。東京上野公園の籠に不意の池があり、それの東畔に弁天神を祀る祠が有ります。この社殿には有名な左五郎の彫刻が歴然として、之を見て参拝者の異様を感ずるのには今にも空中に雄飛しようと

団法には今や与野党共に異議なくその充足は時間の問題と云われるに至りまして勝原、朝日間の着工については運輸省及国鉄当局上層部の方々の口より合言葉のような感じを持つて聞かれるようになり未だかつてない明らかな見通しを感ずることは申すまでもありません。交通の整備が急務であります。将来の和泉村の飛躍を約束する此の越美線の着工こそ最も急を要するものであります。新年度中に是が非でもその突破口を如何なる方途を講じてでも致したい所存であります。

電源開発に伴う決議など 七議案を決議

第30定例村議会開かる

和泉村議会 第30定例会は十二月十六日召集され、村長提出議案四件を可決。電源開発対策協議会委員、上、下、半原部落及び朝日外四部落より出された陳情書を採択の上、夫々議員提案による決議文を決議、午後四時二十五分開会した。議決したものは次のとおりである。

比へて約十年遅れました。いよこの遅れを回復すべく立ち上がる時機が到来したのであります。本年は水没地区の方々で父祖伝承和泉村を後にして行かれる方々もあり、和泉村が祖先の居住地であった事に変わりなく、自分の血の発生地として去り行く和泉村の再建策案には出るだけの御協力が得られるものと期待します。今年には和泉村の再建に私を中心に村職員が打つて一丸となり全力を傾注する決意であります。村民各位の絶大な御支援を切に御願いして年頭の御挨拶と致し

和泉歌壇

年頭所感 助役 宇野重豊

この里はダムの底にし沈むてふ雲たれこめし山狭の里
百歳に居住みなれたる古郷を おきて去むかこの邑人は
足引きの山高みかもわだつみの底深みかも越え渡り来つ

- 議案第一号 九頭竜川電源開発に伴う決議
議案第二号 九頭竜川電源開発に伴う決議
議案第三号 九頭竜川電源開発に伴う決議
議案第四号 九頭竜川電源開発に伴う決議
議案第五号 九頭竜川電源開発に伴う決議
議案第六号 九頭竜川電源開発に伴う決議
議案第七号 九頭竜川電源開発に伴う決議
議案第八号 九頭竜川電源開発に伴う決議
議案第九号 九頭竜川電源開発に伴う決議
議案第十号 九頭竜川電源開発に伴う決議

統制が行きとどき、いやしくも暴力、風記等については、充分安心できる業者であること。
(三) 商取引等については、充分信頼でき、協力的業者であること。
(四) 村政その他の協力については、納税、文教諸施設、公民権行使、保健衛生、その他関係部落の慣習等を充分理解し、村民に融和し、いささかの紛争も生ぜしめず協調出来る業者であること。
二、道路整備について
交通量の増大を予測して事前に、国道の路面拡張と、沿線部落内の補装を着工前に完了すること
三、工用地の復元について
工事期間中工用地として借上げた土地については、返還に際しては現状以上に復元して返還すること。
右決議する。
昭和三十八年十二月十六日
和泉村議会



去りゆく師走

(写真は雪に近い下半原部落民のマキ切風景と報恩講の一コマ)



父祖伝来の郷土も近く水底に沈むとあって郷愁の念切なきものがあつた。これが最後か、あと一歩んかとお別れパレードにもなぞらえ

報恩講の催し、あなた東か、わしや南ぞえ、住み慣れた奥越の山川を捨て、古え人の都おちもかくやと思われ引越の淋しさ。紅葉の錦を愛でつつ国鉄バスにゆられゆられて行き来した穴馬街道もやがて見おさめと感慨に新たである此の頃。部落民の名残の越冬あちこちでマキ切る響も山間にこだまして一入切なるものがある。

人生の再出発、若い人はまあまあだが年輩者に心から同情し、将来の幸福設計を祈念してやまない

県大会に優勝

学校給食調理コンクール



県教育委員会は学校児童生徒の体位向上の一環として学校給食の充実を奨励しているが、去る十二月八日県下の学校給食調理師の郡市代表による調理コンクール大会が開催され、本村からは次の二

自分の身体は自分で守ろう

随分忙しい世の中になつたものである。世情の変遷は戦前の十年と今の三年と匹敵するであろう。アメリカのケネディ大統領の不慮死が全世界にショックを与え、各国挙つて哀悼の意を表している間に、日本では炭鉱爆発と列車転ぶくの事故が相ついで起り、六百人の大量死者を出し、遺家族の涙も



今年甲辰(きのえたつ)の年と言われている。明治三十七年生れの人は還暦(の人は還暦)の年となるわけである。年輩の方ならお分りかと思つたが、新しい方々の為、少し「干支(えと)」のいわれを説明しよう。

福田会を慰問

更正保護婦人会

八月三日新築した更正保護婦人会和泉支部は去る十二月八日、第一回事業として刑罰者の保護施設福田会(会長藤井剛士氏)へ会員より集めた餅一斗四分、小豆三升、砂糖五斤等を持って、代表八名が慰問した。



各種団体だより

乾かぬうちに総武線の国電衝突、福岡のはしい炭鉱の爆発と又々死者を出し、国鉄と炭鉱が何か競争でもしているかの観を呈している。昔話では伊勢参りや江戸への旅立ちには、家族と水杯をして死別の覚悟をしたとか、笑えぬ行事が今の旅行にも再現の要を痛感させられるに至つては、やるかたなき国民の憤まんとなるのも、昨日は人の身今日是我身と思えば当然のことである。加うるに労組の〇〇闘争と名づけてのスト決行で保

現在も使われているのは、子午線正午、午前、午後のようなもので仲々縁が切れない。これは十干(かん)と言つて甲乙丙丁戊己庚辛壬癸(こう、おつ、へい、てい、い、ば、き、こう、しん、じん、き)と、十二支と言つて子丑寅卯辰巳未申酉戌亥(ね、うし、とら、う、たつ、み、うまひつじ、さる、とり、いぬ、い)の十干十二支で出来ていて、これを組み合わせると、甲子(きのえ、ね)の乙丑(きのと、うし)、丙寅(ひのえ、とら)のように六十通りが出来来る。これを年にあてて甲子の年、戊辰の年という。今年甲辰(きのえたつ)の年とあてて甲子の年号と同じである。それで六十年

5x12=60とあり

兄弟

甲(木のえ) 乙(木のま) 丙(火のえ) 丁(火のま) 戊(土のえ) 己(土のま) 庚(金のえ) 辛(金のま) 壬(水のえ) 癸(水のま)

癸(水のま) 壬(水のえ) 辛(金のま) 庚(金のえ) 己(土のま) 戊(土のえ) 丁(火のま) 丙(火のえ) 乙(木のま) 甲(木のえ)

今年甲辰(きのえたつ) 未年は乙巳(きのと、うし)

以下自分で作つて見よう。

北 今の2時間(1とき) 丑3時の頃(今の3時)の頃(今の3時)の頃(今の3時)の頃

東 風(東南の風) 今の台風

正午(今の12時) 子午線

各種団体だより

- 11月19日 村内校長会(日進校)
- 11月28日 漁業組合役員会
- 11月29日 村広報編集委員会
- 11月30日 和泉村消防団自動車ポンプ入魂式(朝日)

税についての説明会

村と村商工会主催による所得税の説明会は、十二月六日、七日の両日、下半原別院、大和小学校、

- ### 編集部より
- 大野市五番 赤尾 幹雄
 - 東京都杉並区東町 木島 尚子
 - 大野市木本 尾崎 徳子
 - 朝日 松田 晴彦
 - 朝日 朝日 英子
 - 朝日 上村 武男
 - 岐阜市妻木町 木村 夏子
 - 愛知県木曾川町北五藤 昭二
 - 下山 西 百合子
 - 下山 林 西之助 八三歳
 - 朝日 中内 与吉 七五歳
 - 朝日 鷲塚 いち 六九歳

人のうしろさ

【出生】 下山 谷 信弘 幸男長男 荷暮 雛成 英恵 次郎長女 上大納 西野 徹也 善孝長男

- 大谷 若山 大吉
- 上半原 長谷川 恭子
- 上半原 長谷川 賢二
- 上半原 周戸 喜代子
- 箱ヶ瀬 勢柄 俊秀
- 岐阜県庄川村六蔵 田中美代子
- 長野 村下 好秋
- 下山 山田 すみあ
- 下半原 中山 和男
- 朝日 谷口 若枝
- 金沢市百姓町 杉本 敬一
- 上半原 三島 三重子



(写真は編集部の委員一同)

公約を守れ

いずこの地方でも激しかった選挙戦が終つて、それぞれ新しい選良が選ばれて初臨時国会が開会されている。再選議員さん、初登壇の新議員さん共に、激しかった選挙戦を振り返つて一入(シオ)感慨と、新しい決意を持たれたことであらうと思ふ。公約と選挙民の期待をお忘れなく、終始一貫選挙民の望みにこたえてほしいものである。▼選挙中、野党の最も攻撃材料となつた公共料金、消費物価の値上り問題は国民の直接今日の台所にひびくことと大衆も相当関心を持つて聴いたことと思はれるが、賃金と物価の鬼ごっこでいたづらに買物に札束がふえて大衆の貯蓄意を低下させ、又未端まで値上りに依つて苦しむ者のない様最善を願うものである。

奥越電源開発事業も

長かつた春?にあらず、長かつた問題の開発計画もいよいよ軌道に乗り、雪どけを待つて穴馬の地に開発の槌音が響かんとしている。「多くの入りの込み」、補償金、「開発ブーム」に依つていずれの開発地にも見られる様にダム景気の風がおし寄せるであろう。商才に長けない地方の人達で、この開発ブーム列車に乗り遅れたら大変、収入は変わらないし、高い物は買わなければならない。景気にはうかされるし、未だ肌寒い様な思いがする。こゝに生れ、こゝに育ち、こゝに生きて行かなければならぬ。元の人達は、この際よく考えお互い団結の力で、取りのこされ様なことのない様にしなければならぬと思ふ。たとえば、物価の値上り等に対しては相互の組合である農協を最高度に利用し、又農協幹部は組合員には利潤割戻し等適当な方法で組合員の利益を守る様に一考願いたいものである。

かじか

▼穴馬に冬眠の時期がやつて来た。長い冬期間、今年中の整理やら来春の準備やらでそれぞれ仕事は絶えないと思はれる。ことに今年から電源開発事業の進展と共に移住の準備やら、その他色々な問題で昔の様な冬眠生活も許されな

い。去る人、残る人、共に自分の行末と村の将来を良く考えて、後日返つて悔を残すことのない様、一生懸命この冬の内に考えたものである。